

佐賀新聞文化センターの講座が始まる午前10時、和装の素敵な女性たちが教室に入っていく。初夏を感じさせる爽やかな出で立ちにひかれ、ちょっと教室をのぞいてみた。「きれいやんねー。でもこの枝はちょっと重かね。思い切って切ろう。」

「季節を楽しむ草花」 講師の鶴田白扇さんが受講生に指摘する。講座では毎回、数種類の草花を受講生がそれぞれの感性で生けていく。白扇さんは次々にアドバイス。ちょっととした助言で素人でも分かるように劇的に変化していく。受講生が仕上がったと感じたら、教室周囲の机に置いていく。スマホで撮影したり、自由に感想を言いあったり。あつという間に3作を仕上げる。「ズイナって歯ブラシみたいでかわいいかねえ...」。白扇さんのひとことに笑いに包まれる教室。

10年以上通っているという女性受講生は「朝9時に自宅の用事を済ませて、バスに乗って来しています。週2回という頻度はメリハリがついて丁度良い。自宅での慌ただしさが抜けてホッとしていますね。趣味で草花を育てています。授業で教わったことを活かして自宅でも生けますが、教室から持ち帰った草花はそんなに日持ちしないので、庭で育てたものを使ってアレンジしています」

特集 ドキュメント 佐賀新聞文化センターの1日 令和元年 少し違う自分に!!



新しい時代に新しいチャレンジを!! 「令和」になってから1カ月。最初は慣れなかった新元号も徐々に生活に馴染んできた。なんだかもったいない気がする。せっかくの転換期、積極的に自分を変えてみるのはどうだろう。転職や移住など大きなことではなく、ごく自然に始められることで良い。毎日の暮らしの中で、これまでと違ったことに挑戦することで「令和」時代を自分の黄金期にすることができるとはならないか。

今回の特集では420講座を誇る県内最大のカルチャースクール「佐賀新聞文化センター」の1日に密着した。朝の最初の講座から夜の最後の講座まで1日ずっと同じ場所にいると、そこに通う人たちのことがよく分かる。実際に最近、講座を始めた人に何人も出会うことができた。それぞれの理由で、少しずつ自分を変えていく。そういう人たちをドキュメント型式で紹介したい。



す。白扇先生の指導はキッチリすぎず、ゆったりしていて良いです。ポイントだけスッと指摘してくださるので分かりやすいです」。優雅だけど笑いの絶えない教室だ。

具体的な助言で輝く

続いて覗いたのが**「大人の色えんぴつ講座」**。この日のテーマはナス。受講生は真剣な表情で色えんぴつを動かしていき。「2時間じっくりモチーフと向き合います。それぞれの個性がしっかり出るのが面白いですね」と講師の大江良二さん。確かにそれぞれのテイストが感じられて興味深い。

男性受講生の作品は丹念に塗り重ねられて色えんぴつとは思えない立体感が出ています。ナスもツヤツヤで下に敷いた布が映り込んでいます。男性は「65歳で会社を退職してから、しばらくあつて3年前から通っています。小中学校のときに絵を描くのが好きだったのでこの講座を選びました。色えんぴつを使うのは50年ぶりだったかな。家ではまったく描かない分、この教室で集中して取組んでいます。他の受講生の取り組み方も見られるので、ひとりで描くよりも勉強になります」と話した。



同じく静かな時間が流れていたのが

「書道の心」この日のお手本は中国・明代の書家・王鐸の作品から「天寒草木稀」の文字が選ばれた。自由な筆運びが面白い。お手本を見ながらじっくり取り組む受講生。講師の高田南嶽さんは生徒さんの筆運びをみて具体的にアドバイスをおくる。「寒の字は横の線が四本あって、すべて向きが違います。楷書は平行ですが、行書は変化をつけなくてはならない。全体を見ていくと、少しずつ方向を変えてバランスをとっています」と高田さん。

自信作が出来たら先生のとこに持っていき朱を入れてもらう。「墨が多すぎましたね。墨付けも技術です。場所や文字の大きさ、スピードで墨の量を判断しなくてはいいけません」。良い字には赤い丸をつけてくれる。「面白いですね。この天と草と木の字は良いですよ」。褒めるところも改善すべきところも具体的。受講生の書も目に

見えて面白いものになっていく。

そうこうしている間に正午に。ここでもちよつと佐賀新聞文化センターの担当者に講座の企画や最近の人気講座について尋ねてみる。文化センターでは毎月、新しい講座を作っており、まずは1日限定の「特別講座」として実施し、好評だったら「通常講座」として定期開催していくという。「最近ではドローン講座が人気でした。特別講座を2回開催して、どちらも定員を超えました。また水引講座も大好評で4月に立ち上げて、午後講座数を増やしました」と担当者。

受講生の年齢層も幅広い。「若い人もたくさん通われています。夜間の講座や土日が多いようです。資格取得というより、レザークラフトやパッチワーク、ハーブ、アロマといった趣味の分野に興味がある印象です。最近では『和』のものが流行しているようです。文化センターは長い歴史が

あり、優秀な講師陣がそろっています。今後は若い世代とうまく結びつけていきたいと考えています」。

外に出たほうがいい

ロビーに元気な歌声が響いてくる午後1時すぎ。『生きがいカラオケ講座』だ。同講座では毎月課題曲に取り組む。今月は北島兄弟の「兄弟連歌」と上杉香緒里「暗夜の恋」だ。まずは「兄弟連歌」。受講生が一人ずつ前に出て成果を披露する。細かい書き込みの入った楽譜を見ながらの挑戦。最初はたどたどしい歌声。すかさず、隣でリズムをとる講師の先生。サポートの力もあり、サビでいい調子に。その後も、出だしを間違ったり、リズムをとれなかったり、ちよつと難しい様子。

先生が「だいたい良いのよ。真面目に歌う歌じゃなけん。宴会用と思つて、深く考えずニコニコと歌つてくだ

さい」とアドバイス。受講生の中から

「みんなしめつらしとる！」との声があがると、教室は爆笑に包まれた。続く「暗夜の恋」はミディアムテンポだけあって、みなさん感情をうまく込めている。なんだかぐつと引き込まれる。「演歌は演じる歌。主人公になったような気持ちで歌ってください。一生懸命練習するだけではなくイメージトレーニングも大事です」と先生。

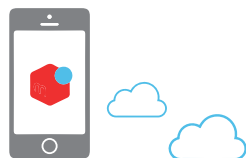
4月に入ったらばかりという女性受講生は「数年前に主人を亡くしました。それまで病院と家の往復だったの、子どもたちから外へ出たほうがいいよ、と言われ、この講座に思い切つて入りました。受講生みなさんも親しみやすく、すぐに溶け込むことができました。先生も教えるのが上手です。下手だけど楽しんでます」と話す。

午後3時になると優雅な『交ダンス(初級コース)』が始まる。じつくり丁寧に複雑なステップを学ぶ。チャチャチャのレッスンでは「足元を見すぎない！男性と女性で足運びは違います。お互い知らんぷりするくらいでちょうど良いですね」と講師の先生。受講生から笑いがこぼれる。ほぼ付きっきりの指導。少しずつステップが形になっていく。

男性受講生は「なかなか上手にならんよ(笑)。昔はダンスホールで自己流だけで踊っていました。足と頭の運動と思つて取り組んでいます。大学時代、ジャズバンドのドラムをしていたのでリズム感はちよつと自信があるけど、ステップだけじゃなくて、頭も腕もびしゃつとせんといかん」と話してくれた。

夕方になると子どもたちの姿が多くなり、ロビーも賑やかになっていく。午後4時すぎからは和室で『子ども茶道教室』が始まる。この日は夏のしつらえである「風炉」を使つたお点前を学んでいた。講師の野本宗幹さんは表千家。子どもたちの動きを見守りながら、細やかに間違いを直していく。簡略化せず、大人と一緒に作法を教える。子どもたちも良い緊張感で取り組んでいる。蜜が描かれた盃(抹茶をいれる容器)や菖蒲の柄が印象的な抹茶碗は野本さんが自宅から持ってきたという。「お茶を通じて季節を大事にする日本文化を感じて欲しいの」と野

6/23日
12:30▶15:00



メルカリフォロワー数で全国1位の「ミヤハラ農園」が講師を務める

生活を資産に! 「メルカリ講座」

フリーマーケットアプリ「メルカリ」のチャンネルで圧倒的人気の佐賀県武雄市の「ミヤハラ農園」が、メルカリの使い方から、上手な取引が出来るようになるまで、実体験を元にお伝えします。メルカリで農産物を売り、3～4時間の配信中に100万円近くも売り上げたことがあるという経営者の宮原さん。農産物の取引件数は月平均約3千件。



難しく考えずにまずは出品してみましょう。メルカリを開けばそこに市場があります。もったけど未使用のお中元やお歳暮、自作したハンドメイド作品など、手元にあるものの思わぬ需要に気付くかもしれません。商売をされる方なら、販路、商圏が飛躍的に拡大します。動画を使えばテレビショッピングのようなことも出来ますよ!

講師 ミヤハラ農園 代表 宮原 龍磨

定員 30名 受講料 2,160円

準備物 スマートフォン (Wi-Fi 環境予定)

- 1 講師紹介「私がメルカリを始めるまで」
- 2 登録の仕方 ワークショップ
- 3 取引のコツ
実例から～①これまでに好評だった出品
実例から～②ちよつと困った出来事
- 4 質疑応答

問 佐賀新聞文化センター
TEL 0952-25-2160
info@saga-sbc.jp

本さんは微笑む。「平成」という文字が入った干菓子が出されると、子どもたちの表情もちょっと緩む。ご相伴に預かり、受講生にお茶を点でてもらう。いざ自分の番となると、まったく作法も知らずにドギマギしてしまう。うーん、子どものころに習っとなればよかったな。

リラックス効果高すぎ

午後7時、ここからは会社帰りの受講生が集まる時間だ。音楽、運動、語学といろんな種類の講座が充実している。まずは「楽しいオカリナ初心者、マイペース講座」に顔を出してみた。

「下の音ください！なんでいろんな音があるのー（笑）」と出だしからズッコケてしまったのは講師の二瓶明子さん。まだオカリナを手にとつて日が浅い初心者向けの教室。すかさず指の押さえ方からレクチャーする。自ら音を出し、「この音に近づけてください。うん、ずいぶん近いですね。次に音をしっかりとキープしましょう。息が乱れないようにしてください」。そのまま音階練習。聞き違えるほど、クリアな音になった。その後、自分が演奏したい曲をそれぞれ選択。二瓶さんが参考に演奏すると、澄んだ音が教室に広がる。うっとりとし聴き惚れる受講生。これはモチベーションがあがる。女性受

講生は「4月から始めました。なにか楽器をしてみたくて、モチモチさを読んで決めてました。オカリナの音色が好きだったので。この教室は19時からなので仕事帰りで来やすいです」と話してくれた。

「お腹のコアを使つてしっかり息を吐いてください」。「ボディコンディ

ショニングピラティス」の講師・原

野梨菜さんの声がフィットネスルームに静かに響く。受講生の背中にポールを当ててチェックする。一人ひとりの状態を確認した後はゆっくりと体の



パートを確認するように動かしていく。「ボールに手を添えて、後ろに壁があるイメージ。息を吐きながら頭から背骨を倒して、坐骨はしっかりマットに付けましょう。背骨を積み上げるように上体を起こしていきます」。原野さんの声に導かれて、受講生が体を動かしていく。声を聞いているだけで、うっかり寝そうになる。リラックス効果高すぎだ。約1時間で講座は終了。女性受講生は「終わった後、爽快感があります。体が軽く感じます、次の日は凝っていたりしますが、この講座に



通うために前日に料理を作っておきます。我が家では講座の日はいらないカレーです（笑）。

いよいよこの日最後の講座「発音で覚えるカンタン中国語」だ。いきなり小テストから始まる。前回の授業で習った単語の聞き取りや文法、翻訳問題などが出される。受講生は10代の女性から初老の男性まで様々だ。講師の陳柯夢さんは真剣な表情で授業を進める。この日のテーマは受身。「被」構文というらしい。「発音で覚える」というタイトルなので会話中心なのかと思っていたら文法もばっちりやる模様。陳さんは文章を読み上げながら、驚くべきスピードで板書し、解説していく。受講生も発音に気を使いながら必死にノートを作っていく。すごく真面目だ。板書された中国語の文法をみていると、字面だけでなくなく意味が分かって楽しい。「肯定」は「必ず」、「放」は「置く」。「好」は「ちゃんと」という意味。動詞を重ねると「ちょっとしてみてください」という意味になり、「理想」は「ちょっと考えてみてください」になるという。いやあ面白い！でも発音になるとチンプンカンプン。だからこそ陳さんは声に出すことにこだわって、受講生を指導していく。男性受講生は「最初に小テストがあるので、良い点が取りたくなくて、ついつい自宅で予習復習してしまっています（笑）。先生が自分でテキストを作つて

くれることもやる気につながっています。中国語を勉強すると日本の漢字の成り立ちが分かって楽しいですよ」と話してくれた。

朝から夜まで開催される佐賀新聞文化センターのカルチャー教室。それぞれの好きな分野をそれぞれのリズムで楽しむことができる。実際にいろんな講座を取材して分かったのは、講師のレベルの高さ。単純に技術があるだけではなく、それを「教える」ための経験と技術と心を持っていると感じた。新しい時代の始まり、新たなチャンネルを佐賀新聞文化センターから始めてみてはどうだろうか？

講座情報一覧「エスプリ」は79ページからご覧ください

第2弾 韓国サッカー観戦記



ミヌ vs ミンヒョク 直接対決にサポーター歓喜

2010年から7年間サガン鳥栖に在籍し、背番号10を背負った金民友選手を応援しようと鳥栖サポーター11名は4月20日、韓国サッカー観戦ツアーで尚州を訪れた。ミヌ選手が所属する軍のチーム尚州尚武FC（サンジュ・サンムFC）と全北現代モータースが対戦。全北現代モータースには2014年から5年間サガン鳥栖で活躍したDFキム・ミンヒョク選手が所属しており、鳥栖サポーターはミヌ VS ミンヒョクの直接対決に注目していた。

試合前、キャプテンマークをつけた背番号7番のミヌ選手がスタジアムに出てくると、鳥栖ファンは尚州側の応援席からミヌ選手の名前を刻んだゲートフラッグや鳥栖時代のユニホームを掲げ声援を送った。試合は尚州尚武FCが0-3で敗戦。この日、左サイドバックでフル出場したミヌ選手は何度もサイドを駆け上がり、チャンスを演出。DFミンヒョク選手との1対1のシーンがおとずれると、鳥栖サポーターのボルテージは最高潮に達した。

試合終了後にミヌ選手とミンヒョク選手が肩を組みスタンドに近づくと、鳥栖サポーターは「ミヌー」「ミンヒョクー」とひととき大きな声で両選手の健闘をたたえ拍手した。昨年のソウルサッカー観戦ツアーでは実現できなかったミヌ選手との集合写真を記念に帰国の途に就いた。ツアーは日本旅行と佐賀新聞文化センターが企画した。



金民友（キム・ミヌ）選手：2010年J2のサガン鳥栖に入団。2011年にはクラブ史上初のJ1昇格に導く。2016年、鳥栖で初の外国人キャプテンとなった。兵役の関係で2016年シーズン終了後に退団。クラブは兵役が終了する2020年まで背番号10を欠番にしている。